

海外ネットワーク

OVERSEAS OFFICES



左より、ローマ日本文化会館、ケルン日本文化会館、パリ日本文化会館

ジャパンファウンデーションは、19カ所の海外事務所を通じて、現地の事情をきめ細かく把握した事業活動を展開しています。国内本部で立案したプランを世界各国で成功させる原動力となるのもこの海外ネットワークです。

活動報告

ジャパンファウンデーションの各海外ネットワーク拠点から届いた、現地ならではのライブ感にあふれる活動報告をご紹介します。文化芸術交流、海外における日本語教育、日本研究・知的交流の各分野で、それぞれの国々の皆さんとまさにふれあいながら創りあげた、地域色豊かな活動の模様をお伝えします。

ローマ日本文化会館

主な活動

展覧会・公演・講演会の実施
図書館運営と外部照会に対する
日本文化情報提供
日本文化事業の支援
日本語講座運営

ローマ日本文化会館では、近年日本への関心を高めているイタリアでの日本文化紹介の拠点としてさまざまな事業を実施しています。2004年度も、図書館と日本語講座を運営するとともに、現代美術から書道にいたる幅広い分野の展覧会、邦楽やクラシック、

JAZZ、現代音楽などの多彩な公演事業を展開。さらに、日伊交流史、日本の伝統演劇や現代演劇に関する講演会を開催し、現在の日本文化の多様性を紹介する事業を実施しました。また、ローマ市をあげた文化催事「ローマの白夜」に参加し、子供向けの日本紹介ワークショップを開催するなど日本を理解してもらうための取り組みを幅広く行ないました。

また、イタリアでは、地方の小さな街にも日本に関心を持つ人が増えているため、こうした地方での催しに対する協力を強化。本部事業「歌舞伎デモンストレーション」をエミリア・アロマーニャ州のラヴェンナに巡回させ

るなど、生の日本の文化に触れてもらえる機会を設けました。



「ローマの白夜」こどものための折り紙ワークショップ

ケルン日本文化会館

主な活動

展覧会・公演・映画を通じた
文化・芸術交流
日本語講座や在ドイツの
日本語教師支援
講演会・シンポジウムの実施
図書館の運営
日本語教材の制作など、
関連事業への支援

2004年は日独間の文化芸術・知的交流をメインに引き続き積極的な広報活動を展開しました。なかでも新たな親日層を開拓するため、

若者を意識した活動に重点を置きました。

日本語講座に関しては、1コースを半期制に改編してから1年が経過したこともあり、運営体制のシステム化を実施しました。

個々の催しでは、ケルン市の文化機関や日本の国際交流団体などとの共催事業を増やし、広報や経費支出面の効率化を計りました。その結果、ケルンだけでなく近隣諸国や他州からも多数の来場者が訪れ、展覧会の会期延長や映画会での補助席増設といった成功をおさめることができました。

さらに講演会やワークショップ、公演プログラムで入場整理券の事前配布を行なわなく

てはならないほどの活況を呈するほどでした。現在はベルリン日独センター、ゲーテ・インスティトゥートなどとの連携も整いつつあり、2005年の「日本におけるドイツ年」「日EU市民交流年」に向けた準備も始めているところです。



ゴジラ生誕50周年記念講演

パリ日本文化会館

主な活動

「Petite Nature?」展
「JAZZ IN JAPAN 5」5夜連続公演
豊田四郎監督作品特集上映
淡路人形浄瑠璃
(共催:兵庫県パリ事務所)
歌舞伎衣裳展
「J-DANCE」2年連続公演
伊万里展
文化交流使・平野啓一郎講演会
「MIYAZAWA SICKバンド」公演
シンポジウム「文化における日欧交流 / 文化の独自性と多様性」

日本が海外に持つ唯一の総合的文化交流施設であるMCJP(パリ日本文化会館)は、開館7年目を迎えました。事業運営においては、人々の関心を引きたい、大勢の人に来ていただきたいという願いが先行しがちですが、伝統的な催しと現代を表現する企画の均衡にも配慮しなければなりません。そのなかで、常設展示を持たないMCJPとしては、常にテーマ性を重視して企画を練り上げることが最重要課題となります。この観点から催した「伊万里展(2004年秋～翌年春)」は、16世紀の末に日本へ到来した陶工技術を発端に、欧州に大量に出荷されるまでに珍重された磁器が、時を経てマイセン、セーブルの磁器発祥の契

機となる壮大な物語を現物作品の紹介と共に展開。18,400人もの人々が訪れ、絶賛を博しました。2005年には、日本と欧州連合との間で市民交流年の行事が多数行なわれました。



伊万里展(©Clément-Olivier Meylan)

ソウル日本文化センター

主な活動

アニメーション作家・山村浩二氏の
講演・上映会
日本語能力試験
日本のプロダクトデザイン展覧会
ソウル大学国際大学院に対する助成

日韓グラフィック・デザイナー交流展、浮世絵展や、山村浩二監督講演会、山本光洋・パントマイム公演など若者層向けの日本文化紹介イベント、日本映画上映会などの日韓交

流事業を展開。また、中等教育レベルの教師の日本語能力向上のための教師研修会を主催、各地の研究会に専門家を派遣しセミナー・講演などを実施しました。2005年1月には「日韓友情年2005」が開幕し、「現代日本のデザイン100選」展やロード・クラブ・フェスティバルを開催。「竹島問題」の影響が心配されましたが、合計で1万人以上の来場者があり日韓間の若者文化の競演となりました。



山村浩二氏による講演

北京日本文化センター

主な活動

日本名宝展 / 中国国家博物館
日本FANS2004 /
日本のポップス音楽紹介
貴州大学日本文化祭 /
日本語弁論大会など
東アジア文化講座特別講演

SARSによる混乱に悩まされた前年度と比べ、順調に事業を行なうことができた1年間と言えます。北京市の中国国家博物館で開催

した日本名宝展の入場者が34,000人を超え、日本語能力試験応募者が過去最大の約10万名を記録するなど、当国における日本への関心の高さが改めて感じられる年でした。年度後半に入った2005年は、終戦60周年でもあり、反日の動きも高まるなど、相反するエネルギーの強さも見せつけられました。事務所としては、広大な当国において、大都市のみに集中しがちな事業の地方展開を充実させるべく増員など体制の整備を始めました。



日本FANS2004

ジャカルタ日本文化センター

主な活動

4カ国親善国際囲碁大会
日本研究ワン・デー・セミナー
アカベラグループ「INSPI」コンサート
演劇集団「劇団風の子」公演
専門高校日本語教科書制作

2004年度のインドネシアは国会議員・地方議員総選挙やインドネシア史上初の正副大統領直接選挙など、政治的な変革が目立ちました。また、曾我ひとみさんとジェンキンス氏

のジャカルタでの対面やオーストラリア大使館の爆弾テロ、スマトラ沖地震と津波などで世界から注目された年でもあります。これらの事件は文化事業にも影響を与え、爆弾テロの脅威から大型の文化イベントを自粛、本センターの事業である高校生日本語弁論大会なども中止されました。こうした状況下で、アカベラグループ「INSPI」のコンサートや文化的国際貢献事業である「劇団風の子」の巡回公演を実現。東西ティモールの子供たちを癒す役目も果たし、大きな成果を残しました。



劇団「風の子」巡回公演

バンコク日本文化センター

主な活動

SOI Music Festival
津軽三味線とボーイ・タイ共演
日本映画祭2004
日本語講座テレビ放映
バンコク日本文化センター
設立30周年記念セミナー

2004事業年度のバンコク日本文化センターの事業重点方針に基づき、伝統と文化の調和した芸術交流や多様な分野での文化交流事業

を積極的に行ないました。また、2004年度は、シリキット王妃72歳慶祝年であると同時に、当センター事務所設置30周年でもあったため、これを記念する事業を実施しました。

日本語教育については、日本語学習者が約5.5万人（2003年度調査世界第8位）、2004年度の日本語能力試験受験者は約8千人（海外3位）を数えました。さらに、9期10カ年度で、163名の中等学校現職教員日本語教師養成研修の効果もあって、日本語学習者が飛躍的に増加する結果をもたらしました。



津軽三味線とボーイ・タイ共演

クアラルンプール日本文化センター

主な活動

中等教育日本語教育の支援
現代舞踊・現代演劇・狂言の公演、
ワークショップ
日本映画祭の開催
本部巡回展
「90年代の日本の絵画展」の開催

マレーシア教育省は2004年に中等教育における日本語教育の拡大方針を明言。従来の全寮制エリート校だけでなく一般校にも日本語

教育を導入するというこの方針に基づき、当センターでは新しいシラバスや日本語教科書の作成、日本語教師の養成などを全面的に支援しました。また舞台芸術分野では、マレーシアのアーティストとの連携を活かしたプロジェクトも展開。今年度はコンテンポラリーダンス公演や狂言レクチャーデモンストレーション、舞台技術関係者向けのワークショップのほか、日本の文化や社会の多様性を紹介する日本映画祭・本部巡回展で、多数の来場者を獲得しました。



コンテンポラリーダンス公演 (redined colors)

シドニー日本文化センター

主な活動

事務所移転
「歌舞伎レクチャー・
デモンストレーション」
新ニューズレター「Omusubi」創刊
全豪日本語弁論大会
日本文化紹介「ワンダーバス・
ジャパン・プロジェクト」開始
「プロダクションIGアニメ展」実施
映画「イノセンス」プレミア上映

当センターは、ジャパンファウンデーションの独立行政法人化をきっかけにシドニー中心部に事務所を移転。新事務所は便利な立地でセンター内の図書館利用者やイベント来場者、メンバー加入者も大幅に増加しました。また、各種イベントや新ニューズレターを通して民間企業の協力を求め、収入の増加をはかりました。「ワンダーバス・ジャパン・プロジェクト」に協賛・後援した民間企業や日本政府関係機関は9機関、日本語弁論大会では8機関にのびりました。



ワンダーバス・ジャパン・プロジェクト

トロント日本文化センター

主な活動

日加修好75周年記念諸事業
高円宮殿下写真展
カナダ各地で
日本語教育事業支援・運営
日本研究関連の会議等を主催・助成
トロント国際映画祭期間中、日本映画監督を招いてのレセプション等開催

トロント日本文化センターでは、日加修好75周年を記念して、高円宮殿下写真展をはじめ

め、講演会や映画上映会、会議助成、小規模助成等基金の持つ様々なスキームを組み合わせ、多様な切り口から日本文化紹介事業を展開しました。2004年6月には、高円宮妃殿下がカナダ各地を訪問され、日加の親善友好の観点から大きなインパクトを残しました。また、高校生など若年層を中心に、アニメや漫画など日本のポップカルチャーへの関心が動機となり、日本語学習者が増加するなかで、日本語教育事業への支援の強化にも努めました。さらに、日本研究・知的交流の分野にお

ける研究者間のネットワーク作りと交流の促進にも取り組みました。



是枝監督を招いての映画祭レセプション

サンパウロ日本文化センター

主な活動

身体芸術分野の講演
日本音楽公演
異分野同士の共同事業促進
日本研究知的交流講演会、ブラジル
日本研究者協会活動支援、南米フェ
ローシップ懇談会
日本語教育支援

ブラジルと日本の文化芸術交流の鍵として、芸術フェローを中心に醸成された「身体

芸術」分野の複合的企画を、映像や舞台芸術、講演シンポジウムの形態で実施しました。また、伝統ある日本美術や現代的デザインの展示事業を行なったほか、ブラジルと日本文化の接点や比較を強調する特別事業も好評でした。「日本学」振興事業では、日本理解のための文化講演会のほか、ブラジル全国の大学で日本語講座を専攻している学生を選抜し、学習奨励集中研修を初めて実施。日本研究・知的交流事業では、「第2回南米フェローシップ懇談会（ブエノス・アイレス市）」で、今

後の南米フェローシップネットワークの機構を構築するための題材を提供しました。



日本音楽コンサートシリーズの一環として実施された「ザクロ・ボンサイ」企画（ブラジル住宅博物館）

マニラ事務所

主な活動

日本映画祭の実施（年2回）
日本の伝統・現代音楽の紹介
日本語教師に対する支援
日比友好祭で各種事業を実施
英文ニューズレター
「JFManila News」発行

歴史的にも、また人的交流の面でも深いつながりをもつフィリピンにおいて、2004年度は日本に対するイメージアップを目的に事業

を展開しました。将来の日比交流の担い手となる若年層を対象に「日本映画祭」や「落語（英語）」公演を実施。日本文化に触れる機会を設けました。東南アジアの中でも高いレベルにある舞台芸術の分野では、日本の優れた演奏家を招いて現地の演奏家と共演、相互交流を実現しました。日本語教育の分野では、日比経済連携協定締結への動きを背景とした、IT技術、看護・介護分野における日本語教育へのニーズを受けて各種事業を展開。また、事務所による日本語講座開設も視野に入

れ、日本語教師に対する支援も実施しました。



新田弘志・昌弘（津軽三味線）
Making Ensemble ジョイントコンサート

ニューデリー事務所

主な活動

HP開設および広報活動
北東部州で基金初映画祭
歌舞伎レクチャー公開演技等
文化事業
南アジア現代演劇公演、
インドトリエンナーレ展
デリー日本文化月間参加協力

ホームページを開設し、イメージアップに取り組んだと共に、基金事業の拡大をめざし

て、2004年度、北東部アッサム州の2都市で、基金初となる日本映画祭を実施することに成功しました。また、写真家・橋口譲二氏のワークショップの模様を伝える展示会や、中村鷹治郎役者一行による歌舞伎レクチャーデモンストレーションをアレンジするなど、インドの市民層に対して、幅広く日印交流事業を展開することに努めました。11月には、日本大使館が行なったデリー日本文化月間へ参加・協力し、日本研究・知的交流事業では、新規案件を発掘。日本語事業では、インドの

IT産業進展などを背景とした、日本語教育熱の高まりに対するサポートを行ないました。



橋口譲二氏のワークショップ展示会

ニューヨーク事務所

主な活動

ニュースレター・ホームページの改定
新規在外自主事業の立ち上げ、
他団体との共催事業の実施
日米交流150周年記念事業への協力
AAC、PAJの事務局運営

ニュースレターとホームページを一新し広報ツールの強化を計るほか、「日本現代文学紹介事業」と「在米日本文化専門家中南米派遣」の2つの新規自主事業を開始しました。日米交

流150周年記念事業には事務所も積極的に参加。巡回映画祭、PAJ（パフォーミングアーツ・ジャパン）も地方都市での文化交流に貢献しました。新規事業である外部機関との共催事業では、NY市立大学と共催した「太平洋序曲」の演出家宮本亜門氏とジョン・ダワMIT教授との対談を実施し、話題を呼びました。対米日本研究公募プログラムの審査委員会であるAACやPAJでは活発な議論が交わされました。また、APAPをはじめ主要芸術見本市で舞台芸術の情報提供も行ないました。



宮本亜門氏とジョン・ダワMIT教授の対談

ロサンゼルス事務所

主な活動

日本語教育の推進・支援
にほんごライブラリー運営
日本語能力試験実施
西部13州対象の日本文化 /
芸術事業の推進・支援
定期刊行物Breeze Wahoo! 刊行

2004年、米国で大きな影響力を持つAP（Advanced Placement）プログラムに、日本語が導入されることが決定しました。それに

伴い、基金は開発費の半額を助成すると共に、APカリキュラム・試験問題開発への協力と、プログラム導入後に備えて基盤整備に着手しました。具体的には、教師間のネットワーク拡充と各州における教育環境向上を目的として、全米の日本語教師会の代表者を集め、「第1回全米日本語教育シンポジウム」を開催したほか、日本語プログラム導入のメリットを、教師や行政担当者、保護者に働きかけるため、APプログラム特別冊子を付け加えた日本語教育Advocacy Kitを全米の主要機関へ

配布しました。



ロサンゼルスで開催された第1回全米日本語シンポジウム

メキシコ事務所

主な活動

国立シネマテークで
日本の無声映画祭開催
モレリア国際音楽祭参加
「プロジェクトX」テレビ放映
グアダハラ国際図書展出展
日本語教師向けセミナー開催

2004年9月、小泉首相がメキシコを訪問し、日墨経済連携協定が調印されました。これは、日墨両国関係の包括的な発展をめざすもの

で、今後は文化面での交流も重要であることが両国首脳会談でも指摘されました。2005年には、セルバンティーノ国際芸術祭へ日本を招待するほか、日墨文化サミットなど大規模な文化交流事業が予定され、準備作業を進めています。また、国土の広いメキシコにおいて、地方での事業展開もめざし、地方都市での文化事業に参加すると共に、従来事業をあまり行なってこなかったチアパス州でも折り紙のデモンストレーションを実施。さらに、ホームページを改訂しニュースレターと事務

所広報資料を一新することで、魅力ある情報発信をめざしました。



折り紙デモンストレーション

ロンドン事務所

主な活動

日本の現代舞台芸術シリーズ
連続講座
日本映画祭
日本研究フェローフォローアップ調査
初等教育レベルの
日本語教育支援策策定
中等教育レベルのスピーチコンテスト

英国の多様なレベルでの対日関心を絶やさないように、地方での事業展開や伝統文化と

現代文化との事業のバランスに留意しながら、芸術および草の根交流の分野における日本文化紹介事業を積極的に支援しました。衰退を懸念する声も聞かれる日本研究分野においては、関係者との協議を継続すると同時に、過去のフェローとのネットワークを再構築するための取り組みも開始しました。日本語教育分野に関しては、英国政府の初等教育レベルにおける語学教育強化政策を受け、前年度実施した初等レベル日本語教育実態調査をもとに、新しい切り口の指導法を開発。早速モニ

ター校で試行するなど、引き続き広範囲に日本語を普及するべく取り組みを行ないました。



日本の現代舞台芸術シリーズ講座風景（2005年2月）

ブダペスト事務所

主な活動

鬼太鼓座公演
展示セット巡回（夙・独楽展など）
日本映画祭開催
中東欧日本語教育研修会の実施
フェロー講演会・懇談会の開催

2004年度は、セゲド市での現代日本映画祭やケストハイ市での日本人形展など、ブダペスト以外の地方都市での事業の実施・協力を積極的に行ないました。

7月には日本から甲斐睦朗国立国語研究所長をお招きし、ブダペスト事務所において「第2回中東欧日本語教育研修会」を開催。中東欧7カ国の教育機関の日本語教師の研修を行なうとともに、ネットワーク構築の機会を提供しました。

2005年1月には「日EU市民交流年」がスタート。開幕イベントとして実施した「鬼太鼓座公演」は、迫力ある音と演奏で大観衆を魅了しました。交流年では、2004年に加盟した10カ国を重点国として数多くのイベントが実

施され、日本文化が紹介されました。



鬼太鼓座による公演

カイロ事務所

主な活動

日本文化イベント
中東日本語教育ネットワーク構築
日本アラブ政策研究者対話企画、第1回会合開催
アラビア語広報誌創刊
イラク人音楽家ナスィール・シャンマ訪日公演

2004年度は、和太鼓公演や日本映画週間、沖縄舞踊公演など、日本文化イベントを数多

く実施しました。また、従来から要望されていた日本アラブ政策研究者対話も始動させるなど、2002年以降の中東重視政策が、目に見えるさまざまな形で具体化した年でした。なかでも評判を呼んだのは、日本映画最新作の35mmアラビア語字幕上映に挑戦したカイロ日本映画週間。これを含め、現代アラブに適した新しいスタイルの事業を追求し続けています。今でもアラブでは、かなり古いステレオタイプの日本イメージが残っているため、文化紹介や広報活動において、若い世代向け

に、先進的文化国家としての日本イメージをアピールするように努めています。



「OSAKA打打打回 天鼓」による和太鼓公演